けやき通信 2025年10月 No.381

— 錦織 佳代子 —

芸術の秋　読書の秋　紅葉の秋

九月になっても暑さは続き、からだもぐったり。「元気をつけよう！」とGORIさん。車で小さな旅。

9/5 三輪田米山展 とべ町

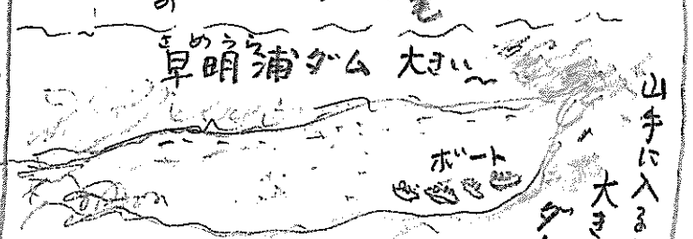
愛媛県生涯学習センター

20年くらい前、米山(ベイザン)の書と石文に出逢い、身も心も吸いこまれた。GORIと二人で、各地に残る神社などの石文(石碑)を、2年余りかけて訪ねてまわった。米山独特の字体、見てほしい

9/13 高知 本山町(もとやまちょう)(山の中) 大原富枝文学館

若いころ、大原富枝の「婉(えん)という女」を読んでひとり宿もから高知市まで訪ねていった。土佐藩家老であった父「野中兼山」も読み心に残っている。大原富枝は本山町で生まれ「毎日出版文化賞」などたくさんの賞を受賞。展示室をゆっくり見てから大原文学にふれた若い日を想い出した。

早明浦(めうら)ダム　大きい〜



山手に入ると大きなダム

香川県にも給水しているらしい。

わがやの朝食・毎朝このメニュー

わたし担当 ← 季節の果物

ウインナー・卵・キャベツ・人参・玉葱も(畑のオクラ・ピーマンなど)　フライパンで蒸し焼き

ポン酢

お茶は私だけ

GORI担当

リンゴ・バナナ・人参・牛乳・ジュース

ヨーグルト・ハチみつ・きな粉

パンにチーズのせてトースト

食後 coffee　食器洗い・後片付けをしてコーヒーをゆっくりいれる

私は食後のひと休み。GORIさんは必要な材料も買ってきて人参など畑で。

ヤサイはまとめてカットしてあるこにある

お互いに自主的に。

9/27 鳥取県 日南町(にちなんちょう)(はじめて知った町)

日南町美術館 100周年展　クレパス誕生

だれもが知ってる サクラクレパス

サクラクレパス

クレヨンとパステルを合わせて発明、図画教育に貢献した佐竹林蔵の生まれ育った町。

展覧会は近代巨匠から現代作家までのクレパス画が沢山!! 石井柏亭、猪熊玄一郎、梅原龍三郎、熊谷守一、林武……著名な画家たちのすばらしいパステル画。感動!! パステルはこんなふうに使って表現するのだ、スゴイ絵具。いい展らん会!!

近くに「井上靖記念館」「松本清張文学碑」などあり、この静かな町、また訪れたい。

読書ノート

野の花は生きる — リディツェと広島の花たち

いぬいとみこ 文
司修 画
童心社
(若い人の絵本シリーズ)

今年、戦後80年。原爆投下から80年。戦争体験を語れる人が少くなっている。私たちは本を読み、映画や写真を観て、平和記念館を訪れて、戦争を知り、体験する。この本を買ったのは1974年2月。改めて読んで多くの人に読んでほしいと切に思う。

—— リディツェの村の六月も、このように静かで明るく楽しげだった。あの恐ろしい夜がくるまでは。

チェコスロヴァキアの首都プラハから炭鉱の町グラドノに向かうとちゅうにあるこのリディツェは、世界のどこにでもあるような、のどかなあたりまえの郊外の村だった。

一九四六年六月九日、夜11時半。小さな村は寝しずまっていた。大かがほえ、トラックのエンジンの音が近づき侵入者たちがやってきた。——

—— ナチの兵士たちは、村の男たち一人残らず殺した。十五歳以上の少女たちは母親といっしょに強制収容所へ送りはたらかせるが、十五歳以下の子どもたちは母親からもぎとって—。村はあとかたもなく焼きはらわれて、リディツェの町の名前も消し去った。なぜ、どうして。そして広島、長崎、沖縄、ウェトナム……。

著者は、チェコを訪れてはじめてリディツェ村の悲劇を知り、いつか「リディツェの絵本を書かなくては…」と。司修(つかさおさむ)の画が沢山挿入され、胸がうるえる。母の腕に抱かれた赤んぼう、老女、そしてハトや町の姿。本文と一体になって、しずかに強く訴える。

戦争は今も続く……。

終わらない暑い夏、それでもあの赤い花!!…山道や田んぼのふちにいっぱい咲く。

お彼岸がきた。

夏の暑さが九月も続いて、十月半ばも日中は30°C前後の気温。伊豆八丈島は台風の被害甚大。そして北海道、東日本の各地で住宅地にも熊が出没・襲われた人、亡くなった人多い。秋はあっという間に過ぎてゆく。今年、あと少し！！